

# データ文化を構築して、よりインテリジェントな意思決定を実現

データ主導型のアプローチは、スタートアップ企業がこれまで以上にスマートかつ適切な情報に基づく意思決定を下す上で役立ちます。しかし多くの場合、データを探し出すようチームを促すには、文化や考え方を変える必要があります。

ビジネスにおいてデータ活用のメリットを得るには、全従業員が自動的にデータ主導の考え方をするようになる必要があります。このチェックリストを確認し、包括的で効果的なデータ文化を構築し始めましょう。



## 01: データの品質をチェックする

データの整合性はインテリジェントな意思決定に不可欠です。データの収集方法と保存方法を監査し、その方法が正確、最新、完全であることを確認しましょう。



## 02: 模範を示す

データ文化を育むには、経営陣から始める必要があります。意思決定の一環としてデータをどのように使用しているかを伝えましょう。その決定が業務に関するものか、戦略に関するものかは問いません。



## 03: データへのアクセスを民主化する

データへのアクセスが制限されている状況は、データ文化を構築する上で最も一般的な障壁です。データのサイロ化を回避し、アクセスを民主化することで、主要な指標を簡単に見つけられるようにしましょう。



## 04: データリテラシー向上のためのトレーニングを提供する

トレーニングでは、基本的なデータスキルを教えるだけでなく、責任を持ってデータを使用することや、出力を精査してより効果的な意思決定を行うことについて、従業員を教育する必要があります。



## 05: 適切なインテリジェンスツールを選択する

ビジネスインテリジェンスツールを使用すると、データの視覚化と分析を容易に行えます。その結果、複雑なデータセットを、チームにとって理解しやすくアクセスしやすいインサイトに変えることができます。



## 06: プロセスを見直し、改善する

従業員の姿勢やスキルを定期的に評価して改善できる領域を特定し、新しいテクノロジーをどのように役立ててればデータ文化を促進できるのか検討しましょう。

## DELL FOR STARTUPS

デル起業家支援プログラムに参加すると、専任のテクノロジーアドバイザーが提供するスタートアップに関する専門知識と、拡張性に優れたソリューションを利用し、ビジネスの成長に向けて準備を整えることができます。

登録はこちら →